

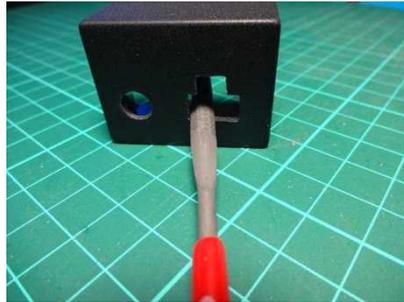
## FT-817 用コンプレッサー内蔵スピーカーマイク接続器・製作説明書

FT-817 は小型でとても性能の良いリグです。しかし、マイクの大きさと AM モードの変調には様々な意見があるようです。原因究明や本体の改造などをせずに、とりあえず「そこそこいい感じにする手軽な小物」がこの接続器です。

小さなマイクと言えば身近にある物としてスピーカーマイクがあげられます。これを利用できたらいいのですが、コードを切るのはもったいないので接続器という発想になりました。都合のいいことにスピーカーマイクはコンデンサマイクを使っているの、ダイナミック型よりも少し高い音まで出ます。これで AM モードで気になっていた音のこもった感じは解消です。さらに、小さな箱ですがコンプレッサーを内蔵して声のある程度一定にしたことで、音の割れた感じも ALC によるキャリア出力の低下もほぼ解消しました。

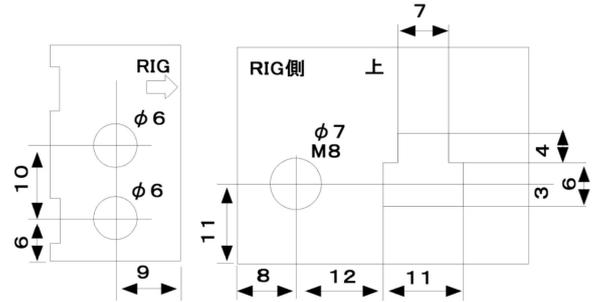
### ケース

この接続器の構造でとても大事な部分、見た目も使いやすさも性能にも影響しますので、慎重に加工します。回り込みなどの心配を減らすため、ケースはタカチ ESW-40B という内部に



メッキシールドしたのを使います。まず 2 mm 程度のドリルで穴をあけてから目的の大きさの穴をあけます。モジュラーは丸穴を複数あけてから目的の形にやすりで削り、少しきつめになるように仕上げます。スピーカープラグ取付部分は M8 タップでねじ加工します。プラグカバー取付ねじはピッチが違うため途中できつくなりますが、固定するには好都合です。

### ケース加工図



ケース外形30×40×20(蓋付)

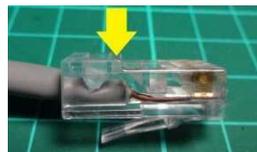


### プラグとジャック

3.5 mm スピーカープラグの端子部分を短く切りケースに取り付けます。その後リグに差し込んで確実に挿入出来るよう調整します。



モジュラープラグは写真の矢印部分をやすりで削り、ケース内部からリグ本体に確実に挿入出来るようにします。



それぞれのプラグは瞬間接着剤で数カ所とめてから、多用途接着材でしっかりと固定します。

スピーカーマイク用のジャック部分は、はじめに 3.5 mm ジャックをねじで固定したうえで 3.5 mm プラグと配線します。その次に 2.5 mm ジャックをねじで固定すれば、狭い部分に配線が難しくできます。

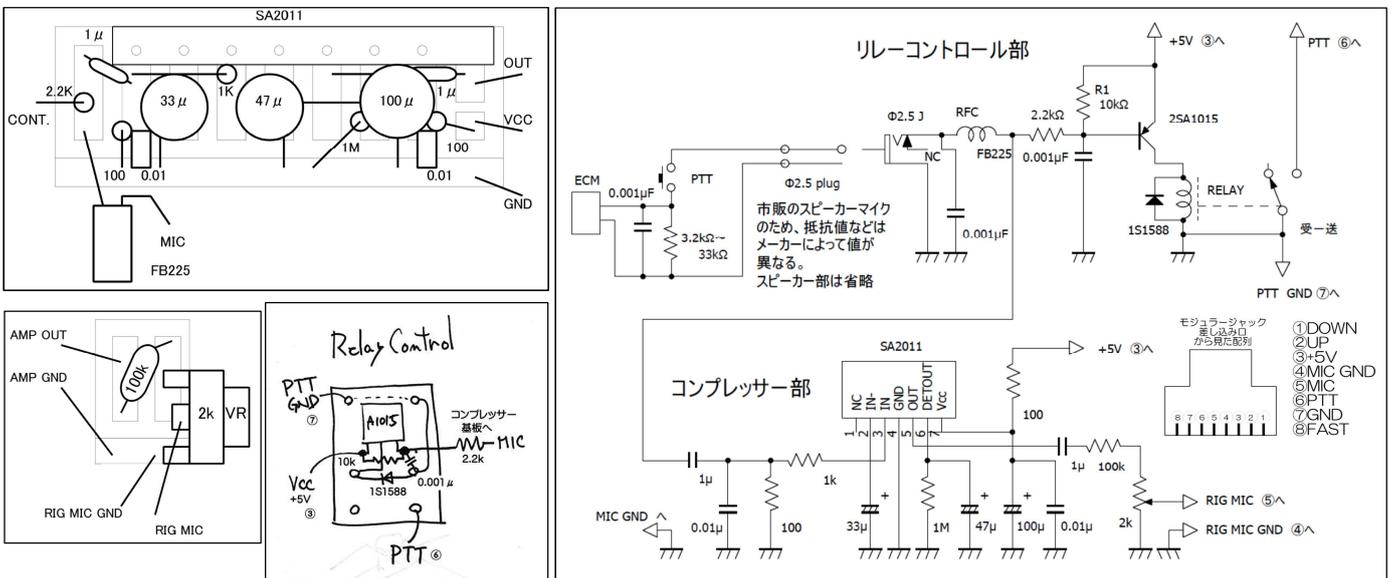
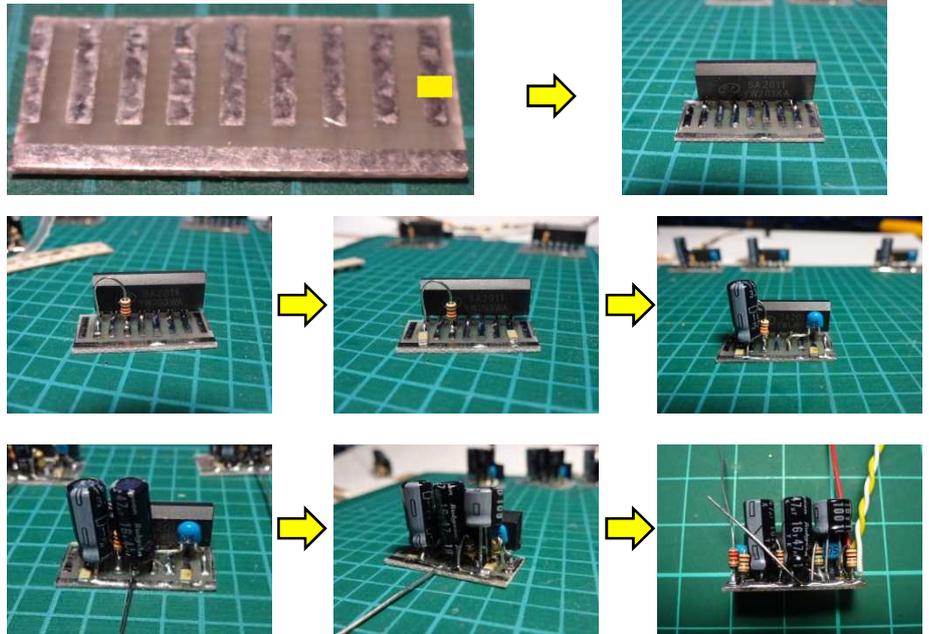


また、3.5 mm ジャックがボックスの時は、ふたと接触する部分をやすりで削ってからねじ止めします。

## 回路製作

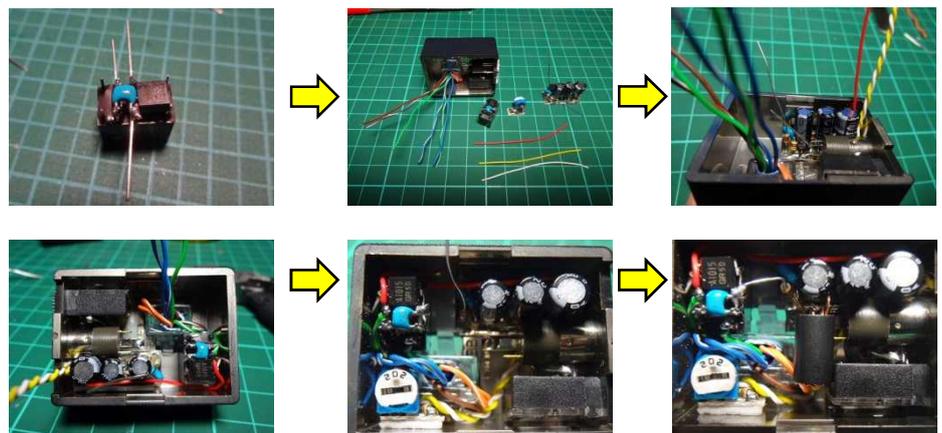
FCZのIC用基板を9つランドをつけて切ります。リードの細い部分を切ったTA2011を基板にはんだ付けする。

ICの3番ピンから抵抗器1kをはんだ付け。次は、チップ型コンデンサ0.01 $\mu$ を2個共にはんだ付けします。その他の部品は配置図を参考に、すき間無くをはんだ付けして回路基板を完成させます。電源供給、出力調整ボリュームに接続するコードなどを取り付けます。



リレー回路はリレーの端子部に図のように部品を配置し、はんだ付けする。

出力調整ボリューム部分も製作して、①アンプ基板②リレー部③ボリューム部の順に両面テープでケース内に貼り付けて接続します。FB-225に0.3UEW線を通してRFCを作り最後に取り付けます。



## 使用方法

音の大きさは、VRを回し調節しますが、おおよそ中心より少し左です。

取付時はめるだけ、外す時はカードをすき間に差し込みます。(電源 OFF)

使用時



取付時



取り外し時

